

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
日本工学院専門学校	昭和51年7月1日	山野 大星	〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-3732-1111																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人片柳学園	昭和25年3月1日	千葉 茂	〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-6424-1111																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
工業	工業専門課程	情報ビジネス科	平成21(2009)年度	-	平成26(2014)年度																														
学科の目的	ビジネス・IT系資格取得のための科目を用意し、またショップ販売、秘書、接客サービス、会計、ホテル、観光など多彩な分野の専門科目も用意。自分の将来設計のため、幅広い分野について学び、接遇の知識を軸とした、各業界で活躍できる人材を育成します。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	全経簿記検定3級 33名合格、日商簿記検定3級 5名合格、サービス接遇検定準1級 26名合格、秘書検定準1級 1名合格、ビジネス能力検定2級 12名合格、ファイナンシャルプランナー3級 10名合格 中途退学者 6名(5.7%)																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いづれかに記入 1,700 単位時間 単位	2,070 単位時間 単位	0 単位時間 単位	2,025 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																																
160人	91人	3人	3%																																
就職等の状況	<p>■卒業生数(C) : 59人</p> <p>■就職希望者数(D) : 53人</p> <p>■就職者数(E) : 48人</p> <p>■地元就職者数(F) : 29人</p> <p>■就職率(E/D) : 91%</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 60%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 81%</p> <p>■進学者数 : 2人</p> <p>■その他 進学者数2名: 1名(日本大学 経済学部 産業経営学科 2年次編入) 1名(日本工学院専門学校 AIシステム科入学)</p> <p>その他:9名 (令和4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 営業販売・ホテル・あらゆる業界の事務・販売職 等(星野リゾート JALグランドサービス、オーケー 等)</p>																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																		
当該学科のホームページURL	http://www.neec.ac.jp/department/design/graphics/																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>4,635 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>2,295 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>435 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>390 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>1,080 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>- 単位</td></tr> </table>							総授業時数	4,635 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	2,295 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	435 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	390 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	1,080 単位時間	総授業時数	- 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	- 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	- 単位	うち必修授業時数	- 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	- 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	- 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	- 単位
総授業時数	4,635 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	2,295 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																		
うち必修授業時数	435 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	390 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	1,080 単位時間																																		
総授業時数	- 単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	- 単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	- 単位																																		
うち必修授業時数	- 単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	- 単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	- 単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	- 単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>3人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計		4人										
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人																																	
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人																																	
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																	
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																	
計		4人																																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
IT分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施。カリキュラム検討メンバーが、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラム(案)を策定し、分科会で検討を進めてカリキュラムに反映させる。またIT分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から3名以上を委員として構成する。本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
前原 恵子	公益社団法人全国経理教育協会 試験作問委員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	①
木下 昌之	株式会社 TRUNK 取締役 チーフクリエイティブオフィサー	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	③
金山 雄太	ソニックス株式会社 ビジネスソリューション開発部長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院専門学校 校長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
児島 正広	日本工学院専門学校 ITカレッジ カレッジ長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
井上 正也	日本工学院専門学校 ITカレッジ 情報ビジネス科 科長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
大塚 勝哉	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 課長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、9月)

(開催日時(実績))

第1回 2022年9月16日 Web会議方式(Zoom)

第2回 2023年3月30日 Web会議方式(Zoom)

第3回 2023年9月末を予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員より専門学校の教育では知識中心の学習ではなく、「実践的な体験」や「技能の習得」など目標の位置づけや企業連携についてご意見を頂いた。それを踏まえて下記の取組を実施しました。

2年次 情報ビジネス科秘書事務eビジネスコース

・六郷BASE(創業支援施設)見学、講話聴講、学生が制作したビジネスプランのプレゼン

・TOKYO創業ステーション(ハブステーション)聴講

・羽田イノベーションセンター(お仕事センター)聴講

・特別講座として城南信用金庫様から資金計画、収支計画について

・ビジネスプラン発表会について

武蔵野大学アントレプレナーシップ学部の学生さんとビジネスプランの合同発表会

・ホテル見学などを実施

・インターンシップ実施

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
サービス分野に関する実践的な実習や演習を行うため、教育内容に関するノウハウや最新の動向における助言、または技術指導などを受けられる企業を選定する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ビジネスプランニング1・2	学外で行っている“ビジネスプラン”の入賞を目標に新規ビジネスのプランニングを考えます。	日本サードセクター経営者協会
Office実習1・2・3・4	コンピュータの基本操作や、基本情報技術者試験の科目にもなった表計算ソフトなどのアプリケーション操作を学びます。	トランスアクト株式会社
プレゼンテーション	情報伝達能力の向上を目的に効果的な情報発信方法や発表手法を学ぶ。またパワーポイントの使い方も学び、プレゼンテーション資料の効果的な作成を行います。	ITBz教育研究所

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「ホテルマーケティング」と「業務フロー作成」	連携企業等: 星野リゾート 小金井氏
期間: 2023年6月16日	対象: ITカレッジ情報ビジネス科教員
内容: ホテルマーケティングに必要なスキル、業務フロー制作のノウハウ	
研修名: 「ホテル未来会議 ホテルをつくる、そして育てる」	連携企業等:
期間: 2022年11月14日(月)～15日(火)	対象: ITカレッジ情報ビジネス科教員
内容: 地球に愛されるホテルづくりとホテルの育て方	
研修名: 「Society5.0社会を目指し、未来(5年後)のIT教育について」	連携企業等: 有限会社リノベイトダブリュ 代表取締役 渡邊 秀樹氏
期間: 2022年9月8日	対象: ITカレッジ情報
内容: 5年後のIT教育について考察し、カリキュラムや学習環境、指導方法等について議論をする。	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「コーチング研修」	連携企業等: (東京都私学財団)
期間: 2023年7月31日(月)	対象: ITカレッジ情報ビジネス科教員
内容: 教育活動成果の客観的フィードバックに活用するルーブリックを用いた評価の基本及び応用を理解する。対話的アプローチを通じて、相手の自己成長を促す方法や、傾聴、質問技法、フィードバックの提供などを学習。コーチングの倫理規定やコーチとしての役割についても理解を深め、実践的な役立つツールを習得。ロールプレイや実践演習を交え、効果的なコーチングスキル。	
研修名: 「高等学校での生徒サポートの現状と必須となる教員マインドとは」	連携企業等: 連携企業等: 大成学園大成高等学校 教頭 加藤信也先生
期間: 2022年9月8日	対象: ITカレッジ教員
内容: 大成学園大成高等学校の教頭である加藤先生より、生徒サポートの現状を通して、教員が必要なマインドや指導方法について理解する。	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「マーケティング」と「ブランディング」	連携企業等: キリンビール株式会社
期間: 2023年8月開催を計画	対象: ITカレッジ教員
内容: STEAM教育、職業教育、プログラミング教育の先進事例を学ぶ	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「STEAM教育、職業教育、プログラミング教育」	連携企業等: 公益財団法人東京私学財団
期間: 2023年8月開催を計画	対象: ITカレッジ教員
内容: STEAM教育、職業教育、プログラミング教育の先進事例を学ぶ	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

精神面による体調不良に悩む学生に対しての当校のサポート体制について委員に現状を説明したところ、多くの委員から以下のご意見を頂いた。

- ・企業内でも新入社員など若手が精神面による体調不良で就業に影響が出るケースが増えている。
- ・原因の一つとして、コロナ禍にあったここ数年で学生時代に人間関係構築の場が少なかった事も影響があるのではないかと。
- ・以上のご意見を踏まえ、当科では以下のように活用していく。
- ・在学中のみならず学生が社会に出てからも心身ともに健康に生活できるよう、学生時代にしか経験できない人間関係構築の場をより多くつくり、学業以外のイベントや部活動等に対しても支援に努めていく。
- ・当校には専門的な知識と経験を持つスタッフが在在するヘルスサポートセンターがあり、当科の担任は悩みを持つ学生に対して、ヘルスサポートセンターとの連携をより強め、安心して学生生活を送れるよう支援に努めていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 最高顧問	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	IT企業等委員/卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委員
平川 進	株式会社テレビ神奈川ecom事業局 ecom事業部	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	クリエイターズ企業 等委員/卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	クリエイターズ/デ ザイン企業等委員
西川 恭子	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
宮地 裕	学校法人上野塾 東京実業高等学校 進路指導部部長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和5年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(11) その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和5年9月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報ビジネス科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		Office実習 1	文書作成ソフトの操作を学び、Office系検定試験の合格を目指します。	1・前	60	2			○	○		○	○	
2	○		Office実習 2	表計算ソフトの操作を学び、Office系検定試験の合格を目指します。	1・後	60	2			○	○		○	○	
3		○	英語基礎 1	英語を聞いたり、話したり、親しみながら状況を理解し、英語で聞かれたことに対して文章で応えられるように聞く力、話す力を身につけます。	1・前	30	2	○			○			○	
4		○	英語基礎 2	英語を聞いたり、話したり、親しみながら状況を理解し、英語で聞かれたことに対して文章で応えられるように聞く力、話す力を身につけます。	1・後	30	2	○			○			○	
5	○		キャリアデザイン 1	就職するにあたっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。	1・前	45	3	○			○		○	○	
6	○		キャリアデザイン 2	筆記試験対策や個人面談等、就職活動対策を強化します。	1・後	45	3	○			○		○	○	
7		○	プレゼンテーション	様々な表現力を理論的に学び、履歴書の書き方や面接対応等のショートプレゼンスキルを身につけます。	1・前	45	1			○	○		○	○	
8		○	スポーツ実習 1	スポーツ合宿等を通してコミュニケーションを図ります。	1・通	30	1			○	○		○		
9		○	一般教養・時事問題 1	社会人としての必要な一般常識の知識を理解する。	1・前	30	2	○			○		○		
10		○	一般教養・時事問題 2	社会人としての必要な一般常識の知識を理解する。	1・後	30	2	○			○		○		
11		○	簿記基礎	簿記や経理の基本概念を学んだうえで、商業簿記の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
12		○	簿記会計 1	企業の経理事務に必要な会計知識や、財務諸表を読む力などを学びます	1・後	60	4	○			○		○		
13		○	秘書 1	「ビジネス知識」や「ビジネスマナー」、「接遇力」といったビジネスパーソンとしての基本を学びながら、自身の成長と検定合格を目指します。	1・前	45	3	○			○		○		
14		○	秘書 2	「ビジネス知識」や「ビジネスマナー」、「接遇力」といったビジネスパーソンとしての基本を学びながら、自身の成長と検定合格を目指します。	1・後	45	3	○			○		○		
15		○	接客サービス 1	サービスの定義や対人技能等の基礎について学びながら、検定合格を目指します。	1・前	45	3	○			○		○		
16		○	接客サービス 2	「接客サービス 1」で学んだことを基に、上級の検定合格を目指します。	1・後	45	3	○			○		○		
17		○	ビジネス能力 1	社会人に必要なビジネス系一般知識の基礎を学び、検定合格を目指します。	1・前	45	3	○			○		○		
18		○	ビジネス能力 2	「ビジネス能力 1」で学んだことを基に、上級の検定合格を目指します。	1・後	45	3	○			○		○		

(工業専門課程 情報ビジネス科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	IoTビジネス活用	商品やサービスをインターネット上で売買するビジネスモデルについて学びます。	1・後	45					○		○		○
			○	マーケティング1	流通や商品化、顧客のニーズといったマーケティングの基本概念を知り、様々な業界や業態について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		○
			○	IT技術1	基本的なコンピュータの操作、クラウドサービス等のITツールの活用方法を実践的に学びます。	1・前	30	1			○	○		○		
			○	IT技術2	基本的なコンピュータの操作、クラウドサービス等のITツールの活用方法を実践的に学びます。	1・後	30	1			○	○		○		
			○	プログラミング基礎	コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力について学びます。	1・後	30	1			○	○		○		
			○	販売士1	販売に必要な商品知識や販売技術、仕入や在庫管理などを学び、検定合格を目指します。	1・後	60	4	○			○		○		
			○	データ分析1	様々なデータから有益な情報を探し出し、改善に役立てる取り組み方法を学びます。	1・後	30	2	○			○		○		○
			○	ホテル管理システム1	フロントシステム（宿泊予約管理）について学びます。	1・前	60	2			○	○		○		○
			○	ホテル管理システム2	売掛システムを中心にPMS Property Management System)の一貫したシステムを学びます。	1・後	60	2			○	○		○		○
			○	ホテルIT経営	これからのホテル宿泊産業に求められる経営知識について学びます。	1・後	60	4	○			○			○	○
			○	ホテル概論	ホテル産業の基礎となる知識を習得し異なる複数の事業者が存在するホテル事業の特長を理解します。	1・前	45	3	○			○			○	○
			○	レストランサービス1	ホテル業界の国家資格であるレストランサービス技能検定の3級合格を目指し学習します。	1・後	45	3	○			○			○	○
			○	ホスピタリティ・マネジメント	コンシェルジュに求められる、柔軟な行動原理、内面的な教育によって心の底からの配慮を学びます。	1・後	30	2	○			○			○	○
			○	イベント実習1	ホテルのイベント企画から実施まで他学科や地域、業界などと連携して行います。	1・通	30	1			○	○		○		○
			○	販売演習1	接遇やマナー、売り込み戦略など、学習したことを実践的に体験します。	1・通	30	2	○			○		○		○
			○	TOEIC対策1	TOEICスコア 500 点を目指して学習します。	1・後	45	3	○			○			○	○
			○	資格対策1	各種、検定試験対策等を行います。	1・前	30	2	○			○		○		
			○	資格対策2	各種、検定試験対策等を行います。	1・後	30	2	○			○		○		
			○	インターンシップ1	一定期間企業等で研修生として働き、関心ある職業の体験を通し見聞を広げます。	1・通	30	1			○		○		○	○
			○	インターンシップ2	一定期間企業等で研修生として働き、関心ある職業の体験を通し見聞を広げます。	1・通	60	2			○		○		○	○

(工業専門課程 情報ビジネス科)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
39		○	インターンシップ 3	一定期間企業等で研修生として働き、関心ある職業の体験を通し見聞を広げます。	1・通	150	5			○	○	○	○		
40		○	インターンシップ 4	一定期間企業等で研修生として働き、関心ある職業の体験を通し見聞を広げます。	1・通	300	10			○	○	○	○		
41		○	業界研究 1	ホテルや観光、空港系ビジネスや小売業など、様々な業界の視察や分析、考察をします。	1・前	15	1	○			○	○	○		
42		○	業界研究 2	ホテルや観光、空港系ビジネスや小売業など、様々な業界の視察や分析、考察をします。	1・後	15	1	○			○	○	○		
43		○	ワークショップ 1	グループワークを通じて、相手の意見を受け入れ、自身の意見を相手に伝え、協力して成果物を作成します。	1・前	30	1			○	○	○			
44		○	ワークショップ 2	グループワークを通じて、相手の意見を受け入れ、自身の意見を相手に伝え、協力して成果物を作成します。	1・後	30	1			○	○	○			
45		○	校外研修 1	最新の情報・技術に触れるために、各種展示会や施設見学等を行います。	1・前	30	1			○	○	○	○		
46		○	校外研修 2	最新の情報・技術に触れるために、各種展示会や施設見学等を行います。	1・後	30	1			○	○	○	○		
47		○	特別講座 1	各業界で活躍している人を講師として招き、特別講義を通して見聞を広げます。	1・前	15	1	○			○	○	○		
48		○	特別講座 2	各業界で活躍している人を講師として招き、特別講義を通して見聞を広げます。	1・後	15	1	○			○	○	○		
49	○		キャリアデザイン 3	就職活動支援に主眼を置き、自己分析や企業分析、さらには筆記試験対策や面接指導等を行います。	2・前	45	3	○			○	○			
50		○	キャリアデザイン 4	効率的に仕事を進める方法やキャリアアップに役立つスキルを学びます。	2・後	45	3	○			○	○			
51		○	Office実習 3	Office系ソフトを活用し、より実践的な実務に近い内容を学びます。	2・前	60	2			○	○	○			
52		○	Office実習 4	Office系ソフトを活用し、より実践的な実務に近い内容を学びます。	2・後	60	2			○	○	○			
53		○	コミュニケーション 1	この授業では社会人として仕事をする上で必要となる「対人スキル」「目標達成スキル」について身につけるために、必要事項、解説を学びます。	2・前	30	1			○	○	○			
54		○	コミュニケーション 2	この授業では社会人として仕事をする上で必要となる「対人スキル」「目標達成スキル」について身につけるために、必要事項、解説を学びます。	2・後	30	1			○	○	○			
55		○	パソコン活用 1	コンピュータの基礎的な知識や操作方法を学び、ビジネスや個人生活で必要とされる各種ソフトウェアやツールを使いこなす能力を学びます。	2・前	30	1			○	○	○			
56		○	パソコン活用 2	コンピュータの基礎的な知識や操作方法を学び、ビジネスや個人生活で必要とされる各種ソフトウェアやツールを使いこなす能力を学びます。	2・後	30	1			○	○	○			

(工業専門課程 情報ビジネス科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	スポーツ実習2	スポーツ合宿等を通してコミュニケーションを図ります。	2・通	30	1			○		○			
	○			ビジネスプランニング1	企画書などのスキルを学びながら地域社会で求められるニーズを調査し、新しいビジネスモデルを創造しコンテストにエントリーします。	2・前	90	6	○			○		○	○	○
	○			ビジネスプランニング2	企画書などのスキルを学びながら地域社会で求められるニーズを調査し、新しいビジネスモデルを創造しコンテストにエントリーします。	2・後	90	6	○			○		○	○	○
			○	ファイナンシャルプランニング1	個人の収支・負債・家族構成・資産状況などから、将来のライフプランニングに即した資金計画やアドバイス方法を学びます。	2・前	45	3	○			○		○		○
			○	ファイナンシャルプランニング2	個人の収支・負債・家族構成・資産状況などから、将来のライフプランニングに即した資金計画やアドバイス方法を学びます。	2・後	45	3	○			○		○		○
			○	秘書3	「ビジネス知識」や「ビジネスマナー」、「接遇力」といったビジネスパーソンとしての基本を学びます。	2・前	45	3	○			○		○		
			○	秘書4	「ビジネス知識」や「ビジネスマナー」、「接遇力」といったビジネスパーソンとしての基本を学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
			○	簿記会計2	経理事務に必要な会計知識や、財務諸表を読む力などを学び、経理の実践感覚を養います。	2・前	60	4	○			○		○		
			○	簿記会計3	経理事務に必要な会計知識や、財務諸表を読む力などを学び、経理の実践感覚を養います。	2・後	60	4	○			○		○		
			○	ICTビジネス活用	商品やサービスをインターネット上で売買するビジネスモデルについて学びます。	2・後	45	3	○			○		○		○
			○	コンテンツ加工	ホームページの作成方法を学びます。また、画像編集ソフトの使い方を学びます。	2・後	45	3	○			○		○		
			○	マーケティング2	「マーケティング1」で学んだことを基に、売れるしくみについて考えを掘り下げます。	2・前	30	2	○			○		○		○
			○	販売士2	販売に必要な商品知識や販売技術、仕入や在庫管理などを学び、検定合格を目指します。	2・前	60	4	○			○		○		
			○	データ分析2 選択	様々なデータから有益な情報を探し出し、改善に役立てる取り組み方法を学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
			○	プロモーション実践	製品・サービスについて消費者が購買意欲を起こさせるための手法について学び、グループワークを行います。	2・後	30	2	○			○		○		○
			○	販売演習2	接遇やマナー、売り込み戦略など、学習したことを実践的に体験します。	2・通	30	2	○			○		○		○
			○	ホテルビジネス英語1	ホテル接客接遇場面に特化した英語を学びます。	2・前	45	3	○			○			○	○
			○	ホテルビジネス英語2	ホテル接客接遇場面に特化した英語を学びます。	2・後	45	3	○			○			○	○

(工業専門課程 情報ビジネス科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	TOEIC対策2	TOEICスコア 500 点を目標して学習します。	2・前	45	3	○			○			○	○
		○	インターンシップ5	一定期間企業等で研修生として働き、自分の将来に関連する職業体験を行います。	2・通	30	1			○		○		○	○
		○	インターンシップ6	一定期間企業等で研修生として働き、自分の将来に関連する職業体験を行います。	2・通	60	2			○		○		○	○
		○	インターンシップ7	一定期間企業等で研修生として働き、自分の将来に関連する職業体験を行います。	2・通	150	5			○		○		○	○
		○	インターンシップ8	一定期間企業等で研修生として働き、自分の将来に関連する職業体験を行います。	2・通	300	10			○		○		○	○
		○	卒業研究	それぞれが提案する理想的なホテルを創造し、バーチャルホテルを開業します。	2・後	120	4			○	○		○		
		○	サービス介助	サービス介助として高齢者、障がい者への対応方法を学びます。	2・後	15	1	○			○		○		
		○	応急手当	応急手当の方法としてAED の使い方、気道異物除去の方法、倒れている人の対応などを学びます。	2・後	15	1	○			○		○		
		○	業界研究3	事務職、営業職、販売職、ホテル観光などの職業が活躍する様々な業界の視察や分析、考察をします。	2・前	15	1	○			○		○		○
		○	業界研究4	事務職、営業職、販売職、ホテル観光などの職業が活躍する様々な業界の視察や分析、考察をします。	2・後	15	1	○			○		○		○
		○	資格対策3	検定試験対策等を行います。	2・前	30	2	○			○		○		
		○	資格対策4	検定試験対策等を行います。	2・後	30	2	○			○		○		
		○	校外研修3	最新の情報・技術に触れるために、各種展示会や施設見学等を行います。	2・前	30	1			○		○	○		
		○	校外研修4	最新の情報・技術に触れるために、各種展示会や施設見学等を行います。	2・後	30	1			○		○	○		
		○	特別講座3	各業界で活躍している人を講師として招き、特別講義を通して見聞を広げます。	2・前	15	1	○			○			○	○
		○	特別講座4	各業界で活躍している人を講師として招き、特別講義を通して見聞を広げます。	2・後	15	1	○			○			○	○
		○	ネットショップ実習	ネットショップを開設、運営するサイトの構築について学びます。	2・後	60	2			○	○		○		
		○	ネットショップ法規	ネットショップを開設、運営するにあたって必要となる法規について学びます。	2・後	15	1	○			○		○		
		○	ブランドマーケティング	ネットワーク・マーケティングの必要性と実践について体系的に学びます。	2・前	30	2	○			○		○		

(工業専門課程 情報ビジネス科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	ホスピタリティサービス工学	人的サービスと対価（自己／他己価値観）、マーケティングノウハウについて学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
			○	ブライダルコンベンション	ホテルの売上の大きな割合を占める宴会やブライダルのオペレーション運営・企画等について学びます。	2・前	30	1			○	○		○		
			○	レストランサービス2	ホテル業界の国家資格であるレストランサービス技能検定の3級合格を目指し学習します。	2・前	45	3	○			○		○		
			○	ホテル管理システム3	売掛、婚礼宴会、ユニフォームシステムを含むPMSの一貫したシステム管理を学びます。	2・後	60	2			○	○		○		
			○	ファシリティ・リスクマネジメント	ホテル施設及び存在するリスクについてそれぞれ適切に管理・運営していく経営活動について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		○
			○	イベント実習2	ホテルのイベント企画から実施まで他学科や地域、業界などと連携して行います。	2・通	30	1			○	○		○		○
合計						99	科目	230(4635) 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 卒業時に必修科目255時間、選択科目1445時間以上を取得し、合計1,700時間以上を取得すること。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 1年次は必修210時間、選択科目690時間以上履修すること 2年次は必修45時間、選択科目755時間以上履修すること		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。